

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100942		
法人名	社会福祉法人 新清会		
事業所名	グループホーム 桜手苑		
所在地	福井市大手2丁目22番18号		
自己評価作成日	令和 3年 9月 23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和3年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地であり本来なら買い物、散歩に適した立地で四季の流れを十分に感じる事の出来る場所になります。自治会や市のイベントにも参加しやすく地域に密着した環境です。現在は新型コロナウイルス感染予防の為、散歩や買い物にも出かけられず残念な思いをしていますが苑内での四季の行事は大切に職員と共に過ごしています。家族様との関係性も継続を心掛けオンライン、電話、手紙等でやり取りを行っています。家族様変わらない姿、笑顔を見て貰えるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は福井市中心部に位置し、近隣には小学校、養浩館庭園、福井城址、公園があり、散策に最適なコースになっている。利用者は窓から季節の移り変わりを感じながらお堀にいる亀を見に行くことを楽しみにしているため、職員は施設内のフロア全体を活用し、外出に向けて利用者の筋力が衰えず楽しく歩行することができるよう工夫している。地域交流の一環として行っている児童・生徒の通学時のあいさつの再開に向け、感染予防対策に取り組んでいる。5階建ての地域密着型介護老人福祉施設の2階に当事業所とデイサービスがあり、3・4階にはショートステイ、4・5階には小規模特別養護老人ホームがある。1階には地域交流の場である介護公民館があり、誰でも気軽に無理なく楽しく自由に憩える場として地域に開かれた法人を目指している。複合型施設の利点を活かし、利用者がその人らしく安心して暮らせるよう支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づきその方らしく生活が出来る様、常に話し合いの場を持ち、支援しています。	法人理念を基に事業所独自の方針と取組みを年度初めに作成している。理念に基づいて安全安心に支援しているかを会議やケース検討会で確認し、年度末に実践が伴っていたか見直している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり行事などへ出掛け交流したり、苑に地域の方を招いて交流する事も出来ていません。	コロナ禍で制限があり、地域の行事にも参加できていないが、日常的なつながりが維持できるように、小・中学校通学時のあいさつの再開に向けて、感染予防対策を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設のサロンや公民館などを利用し認知症の理解や支援を地域の方に向け発信できるように工夫したいと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今の利用者の状況やサービス内容を報告し常に向上出来るように取り組んでいます。	コロナ禍でも法人全体で2か月に1回継続して会議を開催して、参加者から意見を聞きサービス向上につなげている。事業所運営規定に明記している運営推進会議構成メンバーの家族、利用者はまだ参加していない。	地域交流の観点から、地域代表と家族・利用者の参加を得て運営への理解を図り、サービス向上につなげることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、地域包括ケア推進課などに相談し、助言や指導を受けながらケアの向上に努めています。	市の介護保険課、地域包括ケア推進課と法令や事業所運営に関する事を定期的に相談している。地域包括支援センターとは、電話で相談しやすい関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者からの指導、委員会、苑内研修で学び職員一人一人が理解を以って利用者のケアに取り組んでいます。	身体拘束マニュアルを整備し、リモートで研修に参加している。事業所内で身体拘束の具体的な事例を検討し、身体拘束をしないケアの取組みに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の研修、苑での委員会などに参加し管理者からも指導を行っています。職員同士、注意できる環境を整えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	色々な家族構成の利用者も増える中で研修に参加できる機会を頂いています。今後、支援に必要となると認識しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては十分な時間を取り可能な限り家族に理解して頂けるよう、丁寧な対応を心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受診の時に話が出来る時間を設けたり、遠方の方とはこまめに連絡を取ったりして意見、要望を常に把握できる様に心掛けています。	要望・意見は家族が来所した際や電話で聞いている。請求書を送付する際に利用者の近況をお知らせし、手紙も同封して意見をもらいやすい関係を築いている。意見箱やオンラインも活用し、意見を運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2度の管理者会議、1度の職員会議を設けています。	管理者は職員からの意見、要望をその都度聞き、職員はいつでも電話やLINEで意見を伝えている。法人全体の人事考課、申し送りノートでも意見を述べることができ、職員の意見は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修参加(リモート)や資格習得の機会は多くあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を見ながらスキルアップ出来るよう研修(リモート)への参加を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修(リモート)に参加し他事業所職員と意見交換に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族、居宅ケアマネとの面談を行い入居前の情報を職員間で共有に安心を確保できるように心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時や契約時に十分に時間を取り家族の不安、要望を聞き家族と良い関係が築けるよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の要望を把握し職員同士で話し合いながら支援していけるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の興味、楽しい事を見つけ一緒に取り組むよう心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを知り職員全員がその思いを利用者に反映出来るよう心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は出来ないが手紙、電話のやり取りで関係性の継続に努めています。	面会は制限している。家族や友人からお花やお菓子が届くので、関係が途切れないように電話や手紙でお礼を伝えるようにしている。手紙は直筆で送ることができるよう職員が支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合いそうな方同士でテーブルを同じにしたりしています。状況によっては職員と一緒にテーブルに着きます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから特養に移ったりした方などには会いに行ったりしています。家族にも声掛けし相談に乗ったりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から本人の思いを把握し希望に添える様に努めています。	新聞記事やチラシ、広告を活用して利用者の思いを引き出せるように工夫している。言葉に表せない利用者へは寄り添い、表情から思いをくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、居宅ケアマネから、以前の情報を確認し職員間で情報共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中でその方の状況を職員同士連携しながら把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人と必要な関係者と話し合いの場を設け状況に応じた計画書の作成が出来るように努めています。	利用者ごとの担当者はおらず、職員全員で計画に基づいたケアを実施し、記録している。職員会議で計画の見直しを行い、変更時には家族参加で会議を開催し、同意を得ている。介護計画策定には管理栄養士が加わり、食に関する検討も行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や職員の気づきは記録に残し、情報共有できるようにしています。本人の思いも記録に残しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を踏まえ苑にて出来る範囲の対応を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、現在地域交流、ボランティアの受け入れはできていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族へお願いしており、その時に苑での様子をお伝えしたり必要な書類を持参していただく様になっています。	かかりつけ医の受診は家族が付き添うが、受診時の情報提供と、受診後の確認等で、医師と直接連絡を取り支援にあたっている。担当医による往診が月2回あり、利用者・家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の様子は記録し看護師や医療機関と情報を共有し速やかな連携がとれる様に対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、職員が病院へ向かい病院関係者との情報の交換や今後の対応を話し合える関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合いグループホームで出来る支援について職員同士共有しています。	利用者の平均年齢が94歳で、100歳を超える利用者もあり、利用者・家族の要望もあり事業所として看取りに取組みたいと考えている。事業所の上階にある特別養護老人ホームの看取り実施体験や研修を通して職員間で話す機会を設けている。事業所独自のマニュアル等の書類作成に取り組んでいる。	看取りに対しての事業所対応の方針を、利用者、家族、職員間でさらに検討し、医療とも連携して明文化することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルがあり、研修にも参加して知識を深めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し苑内での避難訓練に参加しています。	訓練は年2回行い、昼、夜、夜中で時間帯や出火場所を変えて実施している。防災研修を年1回行い、地震の訓練は法人全体で実施している。事業所は福祉避難所の指定を受けており、水、非常食等を地域住民分も備蓄し地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライベートなケア、話は個室にて行い尊厳を損ねわない様に注意しています。	職員の不適切な発言がないように、管理者が注意し、職員同士で声をかけあっている。また、内部・外部研修で学ぶ機会がある。オムツが外から見えないようにケースで収納する配慮等、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いには、まず肯定し話を聞くように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ希望に添える様に心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えなどは本人に決めて貰っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の食事、おやつ作りは職員と一緒に調理に取り組んでいます。季節の食事会には厨房手作りのメニュー表が付いており中身を確認しながら楽しんでいます。	通常メニューの他に、利用者の身体状況に配慮した特別食を管理栄養士が提供している。外食ができないため、家族が利用者の好みの物をテイクアウトで持って来ることがある。行事食、おやつ作りで食を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人に合わせた食事形態で栄養、水分量が確保出来るようにしています。病院での検査結果を管理栄養士にも確認してもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合った口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しそれに合わせた支援を行っています。	24時間チェックシートを使用し、パソコンで管理している。利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導が必要な場合はさりげなく声掛けを行い、自立した排泄を促している。ほとんどの利用者は自分でトイレに行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時のヨーグルトや牛乳、バナナなどを提供し様子観察を行っています。また、医師とも相談し服薬管理もを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯の決まりは設けてありますが臨機応変に対応しています。	入浴は基本週2回で、利用者の状況や希望で、日曜日以外は24時間入浴できる。実際に、夜間帯でも入浴支援しているケースがある。入浴を楽しめるよう、入浴剤、季節の果物、しょうぶを湯に入れて、ゆったりと入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の本人の様子を見て支援出来るよう心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は1冊にまとめて管理しており、いつでも確認し服薬支援出来るようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意とする事、集中できる事などを理解し日々の活動に活かしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現状、外出行事は取り行っておりません。	コロナ禍の影響で、外出や散歩の機会がなくなっているが、利用者の筋力低下予防と気分転換を図るため、同階のデイサービス終了後はフロアを開放し、歩く楽しみを感じられるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々にお小遣いをお預かりしており買い物に際には自身で支払いをする様に支援していましたが現状は買い物代行としています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話やオンライン通話の段取りを行っています。また家族へのお手紙のやり取りも行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じれる様に工夫しフロア内の飾りつけを行っています。	共用空間は天井が高く、大きな窓からの採光で明るく開放的な心地よい環境になっている。壁面には季節を感じることができる作品を掲示し、一畳分の畳コーナーもあり和の雰囲気を感じることができる。テーブル席の他にソファも置き、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内に畳やソファなども置いてあるので好きな場所で過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置くものに対して制限は設けておらず、自宅で使用していた物をお持ちいただいています。	居室入口は写真、折り紙、造花を飾っており、個性がある。居室には思い出の品や馴染みの家具を置き、壁紙は利用者の好きな張替え可能な大判のシールを貼っている。その人らしい生活を送ることができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力に応じ、家具、ベットの配置、押し車、座席などを工夫しています。		